バスケットボール女子 U（アンダー）-16 北海道選抜 監督に就任！

現代（いま）を活きる

西当別中学校
大浦 浩 校長

↑教育大釧路校時代にはインカレに出場
シュートを放つ大浦校長（当時 20 歳）

今回は、第 74 回国民体育大会バスケットボール女子Ｕ－16 北海道選抜監督に就任した、西当別中学校の大浦浩校長にお話をお聞きしました。

生涯一スポーツマン

幼い頃からとにかく体を動かすことが大好きで、教員時代も体育を教えていました。昔はまだバスケが今ほど主流ではなかったので、中学までは野球部に所属。バスケを始めたのは、中学３年の夏に友人とチームを組んで、バスケ部の下級生と対戦したのがきっかけです。元々スタミナには自信があったので、常に動き回るバスケは性に合ってたのかもしれません。その後も高校や大学、教員でもバスケを続け、59 歳になった今でもシニアでバスケを楽しんでいます。

指導者としても、江別大麻中で２回、恵庭恵明中で１回、全国大会に出場。北海道中学生の強化委員長を勤めた時には、東京 2020 オリンピックで銀メダルを獲得した町田瑠唯（るい）選手や長岡萌映子選手を、中学生の北海道選抜で指導したこともあります。

競技を楽しむ心を大切に

何かに打ち込むことが子どもにとって重要だと考えています。技術の上手下手は関係ありません。バスケで花が咲かなくても、手を抜かずに地道に努力していた子はその後の人生で活躍しています。

子どもたちにバスケを指導する際は、まずは競技を楽しむことが一番大事だと教えています。練習が面白いと思わないと、上手くはならないし、当然試合にも勝つことができません。シュートでもドリブルでも何でもいいですが、まずはそれぞれが興味を持ってもらうことが大事です。面白いと思えば、一生懸命練習するようになるでしょうし、その雰囲気が周りにも伝わって、結果としてチーム全体の強化に繋がっていきます。

今回監督に選ばれた国体は、9 月 26 日から三重県の津市で開催される予定です。まだ組み合わせはおろか選手も選抜していないので、意気込みと言われると難しいですが、子どもたちにとっては全国の舞台を経験できるだけでその後の人生の糧となるので、まずはバスケを楽しみ、結果として試合に勝てればいいと思います。

子どもたちの未来のために

少子化で部活動の維持が難しくなっています。クラブチームなど学校外で活動する場も増えていますが、部活動は普段の生活面も含めて指導ができるので、大きな意義があると考えます。部活動の存続のため、当別中と連携して「拠点校方式」を模索しています。

「拠点校方式」とは、希望する部活動がない場合、別の学校が生徒の受け入れを行う制度です。現在、西当別中のバスケ部や野球部は部員数減少によりチームの存続が難しいため、当別中と一緒に活動しています。今年は男子バスケ部の合同チームが全道中体連大会に進出し、結果を残しました。

大事なのは可能性をなくさないことです。部活がないから、その競技ができないという流れにはしたくありません。教育者として、子どもたちの可能性を最大限に引き出せるように、環境を整えてあげることが使命だと感じています。部活動だけに限らず、これからは学校単位ではなく、地域全体で問題を考えていく必要があります。子どもの成長は地域の活性化につながるのですから。